

## 非除染スギ林に伏せ込んだホダ木と子実体のCs濃度の推移 (その2)

### 1 はじめに

平成26年から28年までの3年間にわたって、県内3か所の非除染スギ林にホダ木を伏せ込み、ホダ木ときこの(子実体)の放射性セシウム濃度(Cs濃度)の推移を測っています。これまでの結果は林業技術情報No.99でお知らせしていますが、今回は、令和元年の調査結果を追加してお知らせします。

### 2 調査方法と結果

**【方法】**平成26年～28年の各年に林業技術センターのビニールハウス内で植菌、仮伏せしたホダ木を、各植菌年の初夏に、一関市の非除染スギ林3か所による伏せしました。伏せ込み前にCs濃度を数本測定、平均し、「伏せ込み前Cs濃度」としました。各伏せ込み年の翌年(1年後)、2年後及び3年後の5月以降にホダ木の一部を抜き取り、粉碎してCs濃度(含水率12%換算)を測りました。各年のホダ木のCs濃度から伏せ込み前Cs濃度を引いて、伏せ込み中に上昇したCs濃度としました。子実体(春子)の採取は伏せ込み翌々年(2年後)以降に行い、乾燥後に重量の4.7倍の水で戻してCs濃度を測りました。

**【結果】**調査したホダ木のCs濃度の平均値は15Bq/kgでした。また、伏せ込み中に上昇したCs濃度は平均で10Bq/kg未満でした(下図左の棒グラフ)。測定したホダ木のCs濃度の最大値は、H27年伏せ込

み・H30年調査(伏せ込み3年後)の102Bq/kgでした。上昇したCs濃度の最大値(同図のひし形)も、H27年伏せ込み・H30年調査の91Bq/kgでした。最大値を示したホダ木は伏せ込みの始点で、スギの落葉や腐植(A<sub>0</sub>層)に埋もれていました。



非除染スギ林に伏せ込んだホダ木

子実体の平均Cs濃度(下図右の棒グラフ)は全体で21Bq/kgでした。伏せ込み年別ではH27年がやや高く、ホダ木の影響をうかがわせましたが、Cs濃度の最大値(同図のひし形)は64Bq/kgと、基準値(100Bq/kg)未満でした。

今回の結果から、ホダ木、子実体ともに平均Cs濃度の顕著な上昇は認められませんでした。しかし、A<sub>0</sub>層に埋まっていたホダ木でCs濃度が最大となったことから、Cs濃度の上昇を抑えるためには、ホダ木がA<sub>0</sub>層に埋まらないように管理することが重要です。今後も引き続きホダ木と子実体の濃度の推移を調べる予定です。

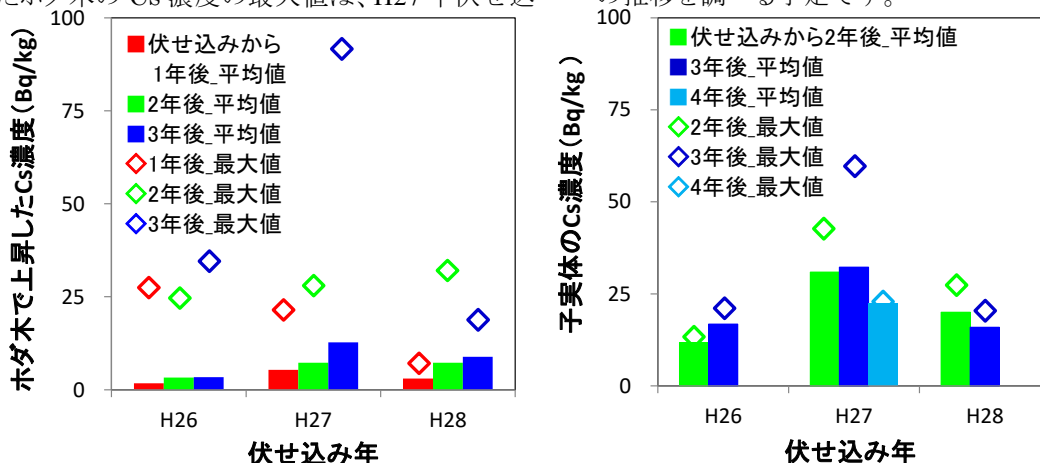


図 非除染スギ林への伏せ込み中に上昇したホダ木のCs濃度 (左) と、子実体のCs濃度 (右) (子実体のH26年伏せ込み/4年後は不作で欠測)

(担当 研究部 上席専門研究員 成松 眞樹)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11  
岩手県林業技術センター  
ホームページアドレス <http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/>

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410